



かけこ

掛合分校
後援会
事務局
(0854)
62-0084



掛合の丘に輝く分校の灯 〜掛合高校創立七十周年〜



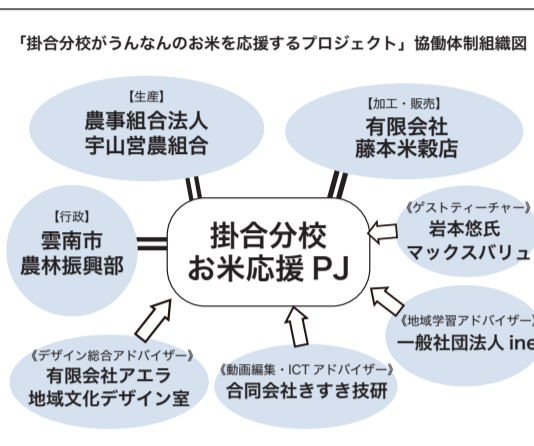
副校長
竹崎 修次

今年度も残りわずかとなりました。掛合高校後援会の皆様には、物心両面にわたり多大なるご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、卯年の今年、掛合高校にとって記念すべき年の幕開けとなりました。掛合高校は一九五三年(昭和二十八年)に、地域の期待を背負って定時制農業科家庭科の高等学校として設立され、その後全日制普通科への改編を経て、今年いよいよ創立七十周年を迎えます。社会全体が激変期を迎える中、掛合高校もまさに兎のごとく、新しい時代への「飛躍」の年となることを願うばかりです。

掛合高校は、創立以来「地域とともにある学校」を標榜し、生徒・教職員が地域の皆様と深く関わりながら、地域に根差した教育活動を行ってきました。ここ数年は、ウィズコロナ時代にも対応できる新たな持続可能性のある教育活動を模索してきましたが、今年度は、それが成果として表れた年度ではなかったかと思えます。その象徴的なエピソードを二つご紹介いたします。

一つは、今年度二年生が取り組んだ「掛合分校がうんなんのお米を応援するプロジェクト」です。雲南市や宇山営農組合(雲南市吉田町)と協働しながら、今年度は年間を通じた大きなプロジェクトとして活動を行ってきました。生徒による雲南市ブランド米「たたら燗米(ほむらまい)」の販売促進活動は、高校生ならではの斬新なアイデアと行動力で地域に活力を与え、東京「日比谷しまね館」における特別販売会の実施は、掛合高校の力を県内外に広く知らしめる成果をあげました。この取組を成功に導いたのが、左図に示す「地域協働体制」とも



言える持続可能な教育体制の構築です。将来を担う子どもたちの育成は学校だけで行う時代ではありません。地域全体で若者の成長を支える、まさに掛合高校開学以来の精神が、この活動に宿っていると

も一つは、演劇同好会の輝かしい活躍です。この三月に卒業した三年生四人が始めた演劇は、今年度さらに発展を遂げ、島根県大会最優秀賞、中国地区大会優秀賞(第三位)という快挙を成し遂げてくれました。彼らの活動を追ったドキュメンタリー映画「走れ!走れ!走れ!モロス」は、全国各地の映画祭で多数の賞を獲得し、先日、東京での劇場公開が始まったところです。これらの活動を支えてくれたのも、若者のチャレンジを支える地域の土壌があったからこそのものと思えます。

掛合高校創立七十周年は、ウィズコロナからアフターコロナへの新たな高校教育の在り方を掛合の地から発信する絶好の機会だと考えています。後援会の皆様に毎年会費としてご寄付をいただいております。趣意書には「掛合分校の教育の灯を消してはならない」という地域の強い思いを結集し、本当にありがたい言葉であり、この言葉にこめられた思いを噛みしめながら、掛合高校が全国に轟く

たのが、左図に示す「地域協働体制」とも言える持続可能な教育体制の構築です。将来を担う子どもたちの育成は学校だけで行う時代ではありません。地域全体で若者の成長を支える、まさに掛合高校開学以来の精神が、この活動に宿っていると

地域コミュニティ・スクールの灯として、掛合の丘から世の中を輝かせる存在になることを願っています。

一年生 地域探究学習
道の駅再生、はやしこ奉納

十一月十二日(土)、掛合町内にある道の駅「掛合の里」交流の館において、雲南市主催による同道の駅の今後の活性化策を考えるワークショップが開かれ、集まった地域の皆様約三十人を前に、一年生が発表を行いました。

掛合高校の一年生は「総合的な探究の時間」を利用して、掛合町内五地区(波多、入間、掛合、松笠、多根)のグループに分かれて「地域探究学習」を行っており、ワークショップの冒頭で、掛合地区を担当したグループが、これまで考えてきた「道の駅再生プラン」を発表しました。この発表をたたき台として、その後、発表した一年生を含め、集まった人たちがグループに分かれて討論を行い、それぞれのグループで大人と子どもを交えた熱い意見交換を行いました。この場に出た意見をもとに、今後、より具体的な方策が検討される予定です。

また、十一月十四日(月)、掛合町波多地区の伝統行事である「はやしこ奉納」が行われ、一年生がその踊り子として参加しました。「はやしこ奉納」は同地区において古くから行われてきた伝統行事で、町の中心地から波多神社まで、地域の人々が神輿をかついで練り歩

きます。新型コロナウイルス感染症蔓延の影響もあり、ここ数年行われていませんでしたが、この日は三年ぶりの開催となりました。

この日は天候にも恵まれ、生徒たちはこれまで練習してきた太鼓を叩きながら町内を練り歩き、無事、波多神社への奉納を終えることができました。地域の方たちも、この伝統行事に多くの若者の力が加わったことを喜んでおられ、地域にたくさんの笑顔があふれる一日となりました。

九月十四日(水)、今年度二年生が、雲南市、宇山営農組合等関係者と協働しながら取り組んでいる「掛合分校がうんなんのお米を応援するプロジェクト」の一環で、春に自ら植えた稲の稲刈り体験学習を行うのに合わせて、関係者の皆様にお米の販売促進プランの中間提案を行いました。

この日は、雲南市吉田町民谷宇山地区を訪れ、まずは生徒がこれまで考えてきたお米の販売促進プランについてプレゼンテーションを行いました。発表後には、お米の生産者である宇山営農組合の皆様、デザイン総合アドバイザーをお願いしているアエラ地域文化デザイン室の影山邦人様、雲南市農林振興部の皆様などから、各班それぞれにコメントをいただきました。午後の稲刈り体験では、コバインに乗車させていただき、農家の

方から手ほどきを受けながら、コバインの操作方法を教えてくださいました。コバインに乗車することは初めての生徒がほとんどで、農作業の大変さを感じることができる貴重な体験をさせていただきました。

また、十一月三十日(水)から十二月二日(金)の二泊三日で、東京研修旅行に出かけました。研修旅行全体を通じたテーマは、「東京からふるさと島根を見つめ、地域の良さを再発見すること」です。一日目は、羽田空港到着後、国会議事堂に向かい、参議院本会議場をはじめ、日本の政治の中心を見学することができました。また二日目の午前には、浅草寺と東京スカイツリーを見学しました。午後には、島根県のアンテナショップ「日比谷しまね館」において、雲南市ブランド米「たたら燗米」の特別販売会を行いました。当日は、たくさんのお客様にお越しいただき、みんなが笑顔で販売実習を行うことができました。また

た、十一月三十日(水)から十二月二日(金)の二泊三日で、東京研修旅行に出かけました。研修旅行全体を通じたテーマは、「東京からふるさと島根を見つめ、地域の良さを再発見すること」です。一日目は、羽田空港到着後、国会議事堂に向かい、参議院本会議場をはじめ、日本の政治の中心を見学することができました。また二日目の午前には、浅草寺と東京スカイツリーを見学しました。午後には、島根県のアンテナショップ「日比谷しまね館」において、雲南市ブランド米「たたら燗米」の特別販売会を行いました。当日は、たくさんのお客様にお越しいただき、みんなが笑顔で販売実習を行うことができました。また

班別に、日比谷しまね館の田中律子館長様、ふるさと島根定住財団の錦織なな子様、株式会社アルプロンの坂本雅俊代表取締役CEO様、参議院議員の三浦靖様、衆議院議員の高見康裕様に、それぞれ貴重なお話をいただき、対話をさせていただきました。東京にいなながら、ふるさと島根をより深く知り、地域貢献意識をより一層高める、大変有意義な研修となりました。三日目は、天候にも恵まれ、みんなお楽しみみの東京ディズニーランドを満喫しました。

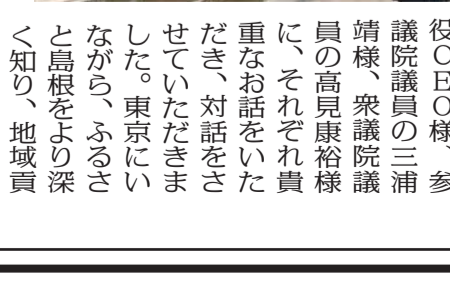
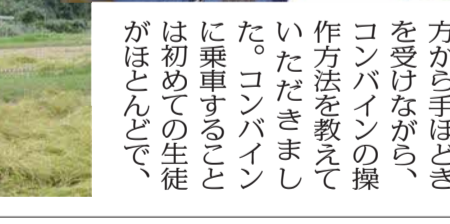
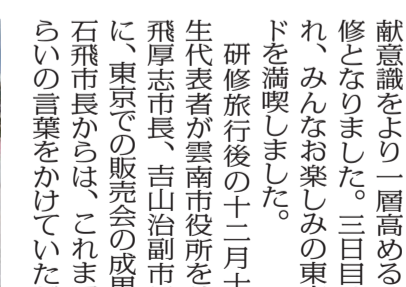
十二月二十日(火)、三年生個人課題研究(卒業研究)の校内成果発表会を行いました。個人課題研究(卒業研究)は、掛合高校の毎年恒例の取組として行っているもので、三年生各自が自身の進路に関係したことや生活上の身近な困り感などについて

多くの関係者の皆様のご協力のもとに、一連のプロジェクトで大きな成果をあげることができました。

き、今後の財産となる学びを行うことができました。すべての関係者の皆様に感謝申し上げます。

十二月二十日(火)、三年生個人課題研究(卒業研究)の校内成果発表会を行いました。個人課題研究(卒業研究)は、掛合高校の毎年恒例の取組として行っているもので、三年生各自が自身の進路に関係したことや生活上の身近な困り感などについて

三年生 地域創造学習
個人課題研究(卒業研究)





自由なテーマを設定し、個人でその解決に向けた仮説を立て、検証していくという学習活動です。この日は、三年生全員が、一人七分でその研究成果を発表しました。新型コロナウィルス感染症対策として、残念ながら全校生徒が一堂に会して行うことはできませんでしたが、発表の様子を、各教室や保護者の皆様等関係者の皆様向けに視聴者限定のYouTubeでライブ配信しました。

研究テーマは高校生らしくユニークで斬新なものばかりで、自己管理のための手帳の有効な使い方や、集中して勉強に取り組むための手法など、生活に密着した内容のものが多く見られました。また、伊達政宗の直筆の手紙に隠された意味について文献調査した研究など、専門的分野を深掘りする内容のものもたくさん見られました。課題研究を通して、三年生はたくさんトライアンドエラーを重ねながら、それを乗り越えて、また一段と成長した姿を見せてくれました。この個人課題研究(卒業研究)は、今後も次の二年生・一年生へと引き継がれ、掛合高校の良き伝統として継承されていきます。

『優秀賞』
佐藤里咲さん「嫌いな野菜に興味を持ってもらえる紙芝居を作る」
伊達清香さん「頭痛と一緒に過ごすために」
三澤朋佳さん「認知症を知り祖母をサポートしよう」

『想友(そうゆう)』仲間と共に掛高祭二〇二二

成果発表を行いました。一年生は、地域探究学習(掛合町内五地区の課題発見と解決策提案)の中間発表を行いました。このうち多根地区グループは、伝統行事である神楽について調べ、それを継承していく活動について発表しました。また、五グループの発表のあとには、全員で特別な掛け太鼓の演奏を行いました。二年生は、「うんなんのお米を応援するプロジェクト」について発表しました。自らが作成したオリジナルキャラクターやPR用のポスター・のぼりなどを紹介し、「三ツ又」動画を含めた三本のPR動画を初公開しました。三年生は学校設定科目「地域創造」の中で行った、雲南市ツーリズムプランについて、四グループに分かれてポスター発表をしました。来場の保護者の皆様、地域の皆様と交え、四グループの発表を順次聞きながら、質疑応答形式で発表内容についての意見交換をしました。

一日目の午後からは、演劇同好会による「走れ!メロス」の公演が行われました。演劇部顧問を含めた三人の出演による演劇で、軽快な演技の中に笑いもあり、楽しく観劇することができました。また、図書委員会によるピリオオバトルでは、四人がバトルとして出場し、それぞれ自分の好きな本について六分間で紹介しました。

二日目に行われた生徒会執行部による企画「謎解きクイズ」では、全校生徒がグループに分かれ、会場内にある様々なヒントを手がかりに答えを求めていきました。すべてのグループの回答を組み合わせると「来年は七十周年」ということが浮かび上がるという手の込んだ仕掛けになっており、会場は大いに盛り上がりました。今回の文化祭を共同開催している掛合町文化協会の皆様による展示・発表や、掛合保育所園児による「掛合太鼓」の演奏など地域の皆様にも多数参加していただきました。

「うたぶ(Utabu)」(掛合高校歌唱同好会)による歌唱やダンスでは、個性溢れる見事なパフォーマンスに会場内は最高潮の盛り上がりとなりました。

二日間にわたって、保護者の皆様、地域の皆様をはじめ多くの来客者があり、二年生が応援する雲南市ブランド米「たたら燐米」と「うやま米」の特別販売会も大盛況となりました。また、「PTAの皆様による「PTAカフェ」では、ホットドリンクで身も心も温まるひとときを過ごすことができました。皆様のご支援・ご協力のおかげで大会のものとして今年度の文化祭を終えることができました。改めてすべての関係者の皆様に感謝申し上げます。



演劇同好会による「走れ!メロス」の公演が行われました。



図書委員会によるピリオオバトルの様子。

秋の遠足 嫁ヶ島、祈りの仏像、松江城

遠足に行きました。はじめに六道湖畔に到着し、学年ごとに渡船に乗船し、嫁ヶ島に渡りました。NPO法人「水の都プロジェクト協議会」のガイドの方から、もとと火山島であったという嫁ヶ島の歴史や、島上にある竹生島(ちくぶしま)神社の祠、漢詩を刻んだ詩碑などについて詳しく説明をいただきました。その後、島根県立美術館で開催されている「祈りの仏像」展を見学しました。国の重要文化財に指定された優作も多く、心洗われるひとときを過ごすことができました。

昼食後は松江城を訪れ、国宝である天守閣をはじめ、島根県指定有形文化財である興雲閣など自由に散策して回りました。

この日は秋晴れのさわやかな天候に恵まれ、ゆったりとした楽しい時間を皆で分かち合うことができました。

島根県の歴史・文化を再発見する、とても有意義な遠足となりました。



謎解きクイズの様子。



「想友」のポスター発表の様子。



特別販売会の様子。

キャリア教育プログラム 職業体験、地元企業説明会

十一月十五日(火)から十七日(木)の三日間にわたって、二年生がそれぞれの将来の進路希望に沿った地元の事業所等に訪れて、職業体験学習(インターンシップ)を行いました。このうち合同会社きずき技研では、ミニロボットの可動性を確かめ、プログラムミ



職業体験学習の様子。



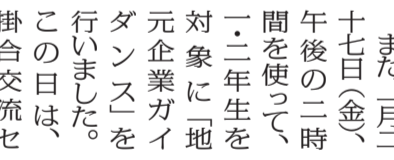
秋の遠足の様子。



松江城の様子。

令和四年度卒業式 掛高三年間の思いを胸に

三月一日(水)、景山俊太郎後援会長、山根信夫PTA会長、小川真里学校運営協議会会長を来賓としてお迎えし、令和四年度掛合高校卒業証書授与式が挙行されました。卒業生十九名に卒業証書が手渡されました。山崎誠校長の式辞では、卒業生に対し「小さな挑戦、小さな気遣いを積み重ねながら、大きな志を持って夢や希望に向かって羽ばたいてほしい」とはなむけの言葉が送られ、卒業生それぞれが三年間の掛合高校での思いを胸に、晴れやかな笑顔で学校を巣立っていかれました。式後には、学校に駆けつけていただいた地域の皆様とともに、皆で「三月九日」を合唱して卒業生の門出を祝いました。今年度の卒業生は、新型コロナウィルス感染症が全国に蔓延する中で、高校三年



令和四年度卒業式の様子。



職業体験学習の様子。

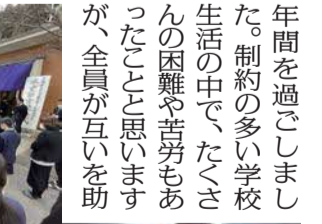


文化祭の様子。

部活動等報告 演劇同好会、写真クラブ、ほか

《演劇同好会》曾田省吾さん(三年) 島根県演劇発表会 最優秀賞 中国地区演劇発表会 優秀賞(三位) 《写真クラブ》土屋拓万さん(三年)・加藤凛さん(一年) 島根県写真秋季コンクール特選 《図書委員会》松原拓生さん(二年) ビリオバトル島根県大会出場 《自由応募》錦織晴子さん(一年) 読書感想画島根県審査会 奨励賞

事務局より
平素より、後援会の皆様には掛合高校の教育活動に、格別のご理解とご尽力をいただき、誠にありがとうございます。さて、掛合高校の多くの生徒は、日頃雲南市民バスを利用して登下校していますが、この度「佐中」のバス停に待合所を設置していただきました。おかげ様で、寒い冬の日も生徒が安心して登下校できる環境が確保されました。以前より後援会の皆様からは「生徒の待合所設置の実現にいたしました。改めてお礼申し上げます。今後とも変わらぬご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。



文化祭の様子。